

平成25年 9月24日開催

石狩市教育委員会会議（9月定例会）資料

<協議事項>

- 1 教育委員会の点検・評価（平成24年度分）について・・・P1～P3

<報告事項>

- 1 「オール北海道で目指す目標」の達成に向けた市教育委員会の取組について
（第4期）（別冊）
- 2 平成25年度全国学力・学習状況調査について（非公開）
- 3 平成25年度石狩市・恩納村中学生交流（派遣）事業について・・・P4
- 4 第58回石狩市民文化祭の開催について・・・P5
- 5 第14回（平成25年度）図書館まっりの開催について・・・P6

石 狩 市 教 育 委 員 会

< 協議事項 1 >

教育委員会の点検・評価報告書（平成 24 年度分）について【修正箇所】

■「施策別の取組状況、分析・評価及び今後の方向性について」

「分析・評価及び今後の方向性」に、中項目を載せる。

■11P（・下から1つ目）

- ・ 学校図書館活性化事業については、八幡小への分館職員派遣（週2回）や花川小学校図書館の校内移転や、厚田小学校図書館（愛称「あいかぜとしょかん」平成 24 年 12 月 10 日オープン）に分館機能を移転して地域開放事業を行ったほか、引き続き、各校の選書・廃棄を支援しました。また、小中学校の図書担当教諭や学校司書を対象とした研修や、各校の学校図書館ボランティア団体へブックコートかけの出前講習会を実施するなど、学校図書館運営に対する支援を行いました。

■15P（・上から1つ目）

- ・ 石狩市教育支援センターでは、スタッフの集中化や連携体制の強化により、きめ細やかな支援を図りましたが、スタッフ数は必ずしも十分でないことから、今後は、地域コーディネーター（特別支援教育担当）の配置もあわせて検討し、業務分担等の工夫を図りながら支援をします。

特別支援教育支援員の配置については、各小学校の1学年を中心に配置することが、学級の支援に極めて有効であることから、引き続き支援の充実が図られるよう取り組みます。

特別支援教育関連講座（市主催の教職員研修）については、市内全校（21 校）から教職員が参加しました。引き続き市内全校が参加されるように、理解・啓発事業に取り組みます。

■15P（・下から1つ目）

- ・ 特別支援教育については、身近な地域で障がいのある子ども一人ひとりの教育ニーズに応じた、専門性の高い指導・支援が受けられる体制が求められていた中で、平成 23 年度に星置養護学校石狩紅葉山校舎（小学部・中学部）が開設され、児童生徒や保護者をはじめ、関係者の念願が実現しました。なお、星置養護学校高等部については、閉校となった札幌稲西高校に平成 26 年度に移設予定であることから、高等部への進学環境について、関係団体等と情報交換をしていきます。

■16P（・下から3つ目）

- ・ 学校力向上については、道教委の「学校力向上に関する総合実践事業」（教職員の加配などを活かし、学校組織全体で学力保障や研修の充実による教員育成などへ取り組む事業）を活用し、花川小学校を中心とした近隣4小学校（花川小・双葉小・紅南小・緑苑台小）が協働で、学校を取り巻く様々な教育課題に積極的に取り組みました。

■17P（・下から1つ目）

- ・ 厚田区の子どもたちに、ハード・ソフト両面からより良い学校を残すために、過去の経緯を含め現状を認識し将来に向けて厚田区全体で考える必要があることから、厚田区各校の PTA を主体に厚田区学校検討会を計6回開催しました。

■ 19P（・上から3つ目）

- ・ 学校ホームページについては、必要な情報を迅速かつ的確に提供するよう、引き続き、最低月1回以上のホームページ更新を目標とし、学校評価における保護者・地域の意見を基に改善を図るよう働きかけます。

■ 19P（・下から2つ目）

- ・ 【関連 P38】市内にある藤女子大学の学生や地域の方々による SAT 活動、読み聞かせ活動、中学校部活動指導などについては地域の教育力を活用した有効的な手段であることから、今後も積極的に展開します。

また、学校支援地域ボランティアは、学校ニーズの掘り起こしと地域との連携が深められたことにより増加しており、あい風寺子屋事業や放課後こども教室を活用した放課後の学習支援などの様々な取組についても保護者の方々から大きな期待が寄せられていることから、平成 25 年度には学校支援地域本部事業の対象校を花川地区全校に拡大を図るなど、地域とともに学校支援の充実に向けて取り組みます。

なお、特に児童生徒に接するボランティアに対しては、事前に心構え等のレクチャーを行っていますが、一層の資質向上のための検討を行います。

■ 19P（・下から1つ目）

- ・ 厚田区子どもたちに、ハード・ソフト両面からより良い学校を残すために、引き続き、厚田区地域協議会など地域の方々と検討を進めます。

■ 27P（・上から1つ目）

- ・ 石狩市教育支援センターでは、教育支援教室「ふらっとくらぶ」を年間238日開設し、不登校児童生徒の通級を促しました。市内不登校児童生徒の2割程度にあたる12名が通級しており、通級児童生徒の学校復帰、社会的自立に向けた支援を行いました。また、平成24年度においては、卒業後安定して高校に登校できるよう卒業生との交流及び学習の時間を設け、中学卒業後の不安解消にも努めました。

■ 32P（・下から1つ目）

- ・ 望ましい生活習慣の定着については、更に家庭に働きかける必要があることから、市PTA連合会と連携し「家庭教育講演会」を2回（11月・2月）実施したほか、広報いしかり11月号において、子どもの生活リズムを取り上げ、生活習慣について周知を図りました。

■ 35P（・下から3つ目）

- ・ 市民スポーツまつりについては、駅伝・タスキリレーなどへの児童生徒の参加が、更に拡大されるよう働きかけるとともに、参加に向けた支援を行います。

■ 38P（・下から1つ目）

- ・ 【再掲 P19】市内にある藤女子大学の学生や地域の方々による SAT 活動、読み聞かせ活動、中学校部活動指導などについては地域の教育力を活用した有効的な手段であることから、今後も積極的に展開します。

また、学校支援地域ボランティアは、学校ニーズの掘り起こしと地域との連携が深められたことにより増加しており、あい風寺子屋事業や放課後こども教室を活用した放課後の学習支援などの様々な取組についても保護者の方々から大

きな期待が寄せられていることから、平成 25 年度には学校支援地域本部事業の対象校を花川地区全校に拡大を図るなど、地域とともに学校支援の充実に向けて取り組みます。

なお、特に児童生徒に接するボランティアに対しては、事前に心構え等のレクチャーを行っていますが、一層の資質向上のための検討を行います。

■ 43P（・上から 1 つ目）

- ・ 市民図書館では、図書館講座や特別展示などを実施したほか、新たに、市のパブリックコメントコーナーを設置し、テーマに関連する図書館資料を展示するなど、学習機会の充実を図りました。

■ 43P（・下から 2 つ目）

- ・ 市民図書館分館でのサービス向上については、_____本館に設置してある「本のリサイクルコーナー」を、花川南分館が設置されている花川南コミュニティセンター内に設置し_____しました。

■ 45P（・下から 1 つ目）

- ・ 蔵書全体に占める新しい資料の割合は、12,573 点（昨年度より 3,637 点減）の新規受入により 4.2%になっており、その内、地域行政資料の新規受入れは 779 点増 となっています。資料収集については、絶版や個人出版で流通していないケースもあり購入だけでは限界があることから、寄贈受入の仕組みの検討や写真記録の収集など、引き続き資料収集に取り組み、市や地域の動きに合わせた情報など、デジタル資料も含めて魅力的な蔵書・情報源の構築を推進するとともに、取組の手法などについて検討を行います。

<報告事項1 別冊資料>

「オール北海道で目指す目標」の達成に向けた市教育委員会の取組について (第4期)

教石第3741号

平成25年8月23日

各市町村教育委員会教育長 様

北海道教育庁石狩教育局長 成 田 直 彦

「オール北海道で目指す目標」(第4期)について(通知)

このことについては、平成24年3月6日付け教石第7168号通知「『平成23年度全国学力・学習状況調査問題を活用した北海道における学力等調査 調査結果報告書(北海道)』について」において、「オール北海道で目指す目標」に向けた各学校の取組が一層充実するようお願いしたところですが、この度、チャレンジテストやこれまでの全国学力・学習状況調査の結果から第1～3期の定着状況を検証し、第4期(平成25年8月～平成26年1月)の目標を別添のとおり作成しましたので送付します。

つきましては、本道の全ての子どもが社会で自立して生きていくために最低限必要な学力を「いっそう、確実に」身に付けるために、全ての学校が「オール北海道で目指す目標」の実現に向けて継続的に取り組むことができるよう、所管の学校へ指導助言願います。

また、「オール北海道で目指す目標」第4期については、「ほっかいどう『学力・体力向上運動』」の一環としても位置付けており、本リーフレットを北海道教育庁学校教育局義務教育課のWebページ(<http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/gks/reef4.htm>)に掲載しますので、保護者や地域住民の方々にも御覧いただき、家庭・地域と一体となった学力向上の取組の機運を一層高めていただけるよう、併せて所管の学校へ指導助言願います。

なお、本リーフレットについては、現在、業者で印刷を行っているところであり、8月末ごろには第1～3期と同様に道内全ての市町村教育委員会及び教員に配付する予定ですが、当面、別添データを印刷し、できるだけ早く所管の学校の全ての教員に配付するなどして、周知願います。

(教育支援課義務教育指導班)

第4期（平成25年8月～平成26年1月）

いっそう、
確実に



オール北海道で目指す目標

第1期～第3期では、これまでの全国学力・学習状況調査やチャレンジテストの結果等を分析し、すべての子どもたちに基礎学力を保障する観点から、つまずくとそれ以降の学習に影響が大きい学習内容を選び、「オール北海道で目指す目標」を設定してきました。

各市町村教育委員会や学校の継続した取組により、「オール北海道で目指す目標」の定着状況には改善の兆しが見られています。第4期では、この改善を“いっそう、確実に”なものにするために、第1期～第3期の取組の結果から、より課題の大きいものに重点化して目標を設定しています。

これまで同様“チャレンジテスト”を活用して定着状況を検証し、次の指導に生かしましょう。

国語

すべての小学生が、
条件に応じて書くことや
学習した漢字を確実に書く
ことができるようにしましょう。

1・2年生

- ・ 続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書く。

3・4年生

- ・ 目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書く。

5・6年生

- ・ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えを書く。

2～6年生

- ・ 学習した漢字を確実に書く。

算数

すべての小学生が、
四則計算を確実にする
ことができるようにしましょう。

1年生

- ・ たし算
- ・ ひき算 など

2年生

- ・ かけ算九九
- ・ たし算・ひき算の筆算（2位数まで） など

3年生

- ・ わり算
- ・ たし算・ひき算の筆算（3位数まで） など

4年生

- ・ 四則混合計算 など

5年生

- ・ 小数の四則計算 など

6年生

- ・ 分数の四則計算 など

国語

すべての中学生が、
条件に応じて書くことや
小学校で学習した漢字を
確実に書く
ことができるようにしましょう。

1年生

- ・ 自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書く。

2年生

- ・ 説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書く。

3年生

- ・ 資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書く。

1～3年生

- ・ 小学校で学習した漢字を確実に書く。

数学

すべての中学生が、
方程式を確実に解く
ことができるようにしましょう。

1年生

- ・ 正の数、負の数の四則計算
- ・ 一元一次方程式 など

2年生

- ・ 連立二元一次方程式 など

3年生

- ・ 二次方程式 など

※このページでは、主な学習内容の一部を示しています。詳細は、各教科のページを御確認ください。

「オール北海道で目指す目標」や「目標へのロードマップ」についての詳しい内容を、第1期～第3期のリーフレットに記載していますので、併せて御覧ください。（<http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/gks/reef1.htm>）

第4期 国語「書くこと」の領域及び漢字に関する事項

★条件に応じて書くことや学習した漢字を確実に書くことができるようにしましょう。

- すべての児童が、各学年において「条件に応じて書くことや前学年までに学習した漢字を確実に書くことができるようにする」ために、指導事項等を確認し、言語活動を通して、学習指導要領の内容が確実に身に付くよう指導の改善を図りましょう。

指導のポイント

【必ず定着させる指導事項等を確認しましょう】

第1学年及び第2学年
 語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと

第3学年及び第4学年
 書くこととすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと
 文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと

第5学年及び第6学年
 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり、詳しく書いたりすること
 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと

学年別配当漢字
 ・第1学年：80字
 ・第2学年：160字

学年別配当漢字
 ・第3学年：200字
 ・第4学年：200字

学年別配当漢字
 ・第5学年：185字
 ・第6学年：181字

【指導方法を工夫しましょう】

◇各学年の取組例◇

第1学年及び第2学年
 「句読点の打ち方や、かぎ（「」）の使い方を理解して文章の中で使うこと」、「文の中における主語と述語との関係に注意すること」など、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕と関連付けた指導を工夫しましょう。

第3学年及び第4学年
 目的や必要に応じて、中心の内容や段落に対して、原因や理由を挙げたり、分かりやすく説明するために事例などを挙げたりさせるとともに、相手や目的に応じて敬体と常体を使い分けることに留意させましょう。

第5学年及び第6学年
 引用する際には、「原文に正確に行うこと」、「引用した部分と自分の考えとの関係などを明確にすること」、「引用部分が適切な量になること」、「文章を引用する場合には、引用する部分をかぎ（「」）でくくること」などに留意させましょう。

「書くこと」の指導において、決められた字数で書くことのほかに、例えば、次のような条件を併せて設定して取り組ませましょう。

- ・書き出しの言葉や終わりの言葉につなげる。
- ・書き方の例にならう。
- ・敬語を用いる。（第3学年及び第4学年以上）
- ・グラフや資料を活用する。（第3学年及び第4学年以上）
- ・文章中の言葉を使う。
- ・指定された言葉を使う。
- ・自分の経験や体験を基にする。

書くために必要な時間を、児童の実態に応じて適切に設定し、時間を意識して取り組ませましょう。

漢字の指導に当たっては、例えば、間違いの多い漢字を定期的に教室に掲示したり、意図的にひらがなで板書した言葉を、漢字に直してノートに写させたりするなど、振り返りの機会を増やす指導を工夫しましょう。

訓読みの漢字の定着率が低い場合は、例えば、ミニテストを実施し、音読みと訓読みの両方の用例の書き取りをさせたり、送り仮名を含めて書き取りさせたりするなど、児童の実態に応じた指導を工夫しましょう。

◇全校としての取組例◇

- 国語科を中心としたすべての教科等において、様々な条件の下で書く活動を日常的に行うとともに、書いたものを交流したり、振り返ったりさせる。
- 話したり、書いたりする活動を行う際には、学習した漢字や用語等を意図的に用いて表現させる。
- ノートやワークシート等を点検する際には、間違いやすい漢字の表記などにも留意し、正しく書いていない場合には、朱書きでコメントを記す。

第4期 国語「書くこと」の領域及び漢字に関する事項

★条件に応じて書くことや小学校で学習した漢字を確実に書くことができるようにしましょう。

- すべての生徒が、各学年において「条件に応じて書くことや小学校で学習した漢字を確実に書くことができるようにする」ために、指導事項等を確認し、言語活動を通して、学習指導要領の内容が確実に身に付くよう指導の改善を図りましょう。

指導のポイント

【必ず定着させる指導事項等を確認しましょう】

第1学年
 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと

第2学年
 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと

第3学年
 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くこと

学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うこと

学年別漢字配当表に示されている漢字（1006字）を書き、文や文章の中で使うこと

学年別漢字配当表に示されている漢字（1006字）について、文や文章の中で使い慣れること

【指導方法を工夫しましょう】

◇各学年の取組例◇

第1学年
 接続語の使用や段落構成の工夫などによって、読み手に対して、どの部分が根拠であるかが明確になるような表現上の工夫をさせましょう。また、生徒の実態に応じて、小学校の第5学年及び第6学年の「記述」についての指導事項を繰り返し指導しましょう。

第2学年
 「構成」についての指導事項である「自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫すること」にも留意させながら、分かりやすい説明や具体例を加えたり、表現しようとする内容にもっともふさわしい語句を選んで描写を工夫したりさせましょう。

第3学年
 資料が、自分の考えの根拠としてふさわしいかどうかについて検討したり、引用部分を明らかにした上で、資料が伝えたいことと自分の考えとの関係について補足したりすることに留意させましょう。また、引用部分が「適切な量であること」など、引用に関する留意点について繰り返し指導しましょう。

「書くこと」の指導において、決められた字数で書くことのほかに、例えば、次のような条件を併せて設定して取り組ませましょう。

- 書き出しの言葉や終わりの言葉につなげる。
- 書き方の例にならう。
- 敬語を用いる。
- グラフや資料を活用する。
- 文章中の言葉を使う。
- 指定された言葉を使う。
- 自分の経験や体験を基にする。

書くために必要な時間を、生徒の実態に応じて適切に設定し、時間を意識して取り組ませましょう。

漢字の指導に当たっては、例えば、間違いの多い漢字を定期的に教室に掲示したり、意図的にひらがなで板書した言葉を、漢字に直してノートに写させたりするなど、振り返りの機会を増やす指導を工夫しましょう。

ミニテストを行う際に、例えば、教科書教材や新聞など、実際の文章の中に用いられている漢字の読み書きを行わせたり、指定した漢字を用いた例文を書かせたりするなど、文や文章の中で使う指導を工夫しましょう。

◇全校としての取組例◇

- 国語科を中心としたすべての教科等において、様々な条件の下で書く活動を日常的に行うとともに、書いたものを交流したり、振り返ったりさせる。
- 話したり、書いたりする活動を行う際には、学習した漢字や用語等を意図的に用いて表現させる。
- ノートやワークシート等を点検する際には、間違いやすい漢字の表記などにも留意し、正しく書いていない場合には、朱書きでコメントを記す。

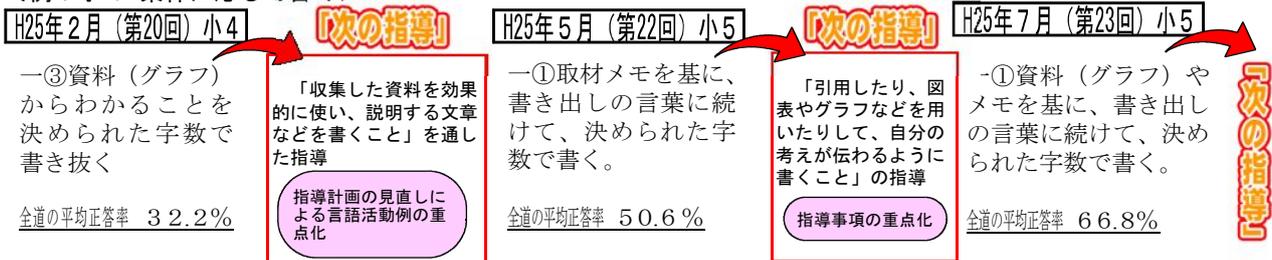
国語（第4期）の目標を実現するために

子どもたちの課題をきめ細かく把握し、次の指導に生かすために、「①チャレンジテストの結果から“どの程度定着しているのか”を検証するとともに、②全国学力・学習状況調査の解答類型や無解答率を分析し“授業改善のポイントはなにか”を把握しましょう。

① チャレンジテストの結果から「次の指導」へ

第4期の目標に合わせてチャレンジテストを配信します。「指導計画の見直しによる指導事項の重点化」等による取組の成果を、チャレンジテストで検証するなどして、次の指導に生かしましょう。

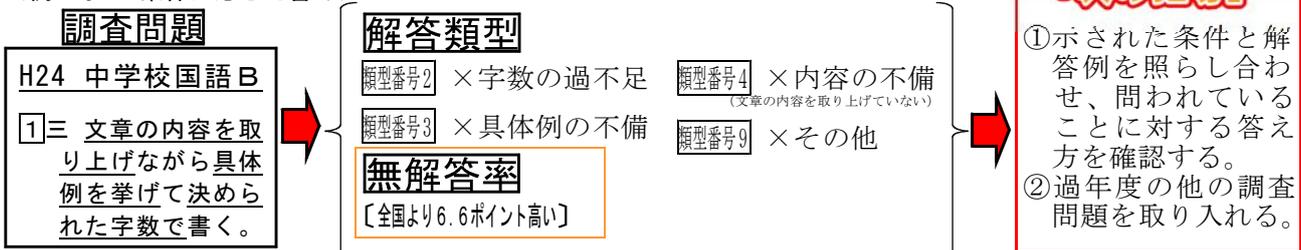
＜例：小4 条件に応じて書く＞



② 解答類型・無解答率の分析から「次の指導」へ

第4期の取組を充実させるため、自校の「解答類型」や「無解答率」を分析し、次の指導に生かしましょう。

＜例：小6 条件に応じて書く＞



第4期の検証問題(チャレンジテスト)

第4期では、これまで同様、過去のチャレンジテストや全国学力・学習状況調査の問題等を参考にしながら、検証問題（冬のトライやるウィーク）として、次のような問題を出題する予定です。

各学校においても、サポート問題や、過去の調査問題、過去のチャレンジテストを活用したり、独自の問題を作成したりするなどして、確実に身に付くまで繰り返し指導しましょう。

小学校

- 第1学年 ★つながりのある文や文章を書く
- 第2学年 ★つながりのある文や文章を書く
- 第3学年 ★理由や事例を挙げて書く
☆「百点」「昼」等を漢字で書く
- 第4学年 ★理由や事例を挙げて書く
☆「重点」「平等」等を漢字で書く
- 第5学年 ★引用したり、図表やグラフなどを用いたりして書く
☆「停車」「焼(く)」等を漢字で書く
- 第6学年 ★引用したり、図表やグラフなどを用いたりして書く
☆「逆上がり」「編集」等を漢字で書く

中学校

- 第1学年 ★自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書く
☆「分担」「簡単」等を漢字で書く
- 第2学年 ★説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書く
☆「試(みる)」「補(う)」等を漢字で書く
- 第3学年 ★資料を適切に引用して書く
☆「招待」「借(りる)」等を漢字で書く

※漢字は、過去の全国学力・学習状況調査及びチャレンジテストの問題例です。ここで例示した漢字以外にも活用できる問題は複数あります。今後、これまでに出版された漢字一覧を掲載します。 → <http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/gks/reef4.htm>

第4期 算数「数と計算」の領域に関する事項

★四則計算を確実にすることができるようにしましょう。

・すべての児童が、各学年において「四則計算を確実にすることができるようにする」ために、指導内容を確認し、算数的活動を通して、学習指導要領の内容が確実に身に付くよう指導の改善を図りましょう。（「数量関係」領域の「四則混合計算」を含む）

指導のポイント

【必ず定着させる指導内容を確認しましょう】

第1学年 <input type="checkbox"/> たし算 <input type="checkbox"/> ひき算 など	第2学年 <input type="checkbox"/> かけ算九九 <input type="checkbox"/> たし算・ひき算の筆算(2位数まで) など	第3学年 <input type="checkbox"/> わり算 <input type="checkbox"/> たし算・ひき算の筆算(3位数まで) など	第4学年 <input type="checkbox"/> 四則混合計算 など	第5学年 <input type="checkbox"/> 小数の四則計算(たし算・ひき算・かけ算・わり算) など	第6学年 <input type="checkbox"/> 分数の四則計算(たし算・ひき算・かけ算・わり算) など
---	---	---	--	---	---

【指導方法を工夫しましょう】

◇算数的活動の充実例◇

第1学年
 ・計算の意味や計算の仕方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして表す活動をしましょう。

第2学年
 ・どの段のかけ算九九についても十分習熟し、確実に計算することができるよう、色々な方法(答えの大きい方から、途中から、ばらばらに)で表す活動をしましょう。
 ・位をそろえることにより形式的に処理しやすくなるなど、筆算のよさを説明する活動をしましょう。

第3学年
 ・包含除と等分除の違いを、身近なものや具体物を操作して説明する活動をしましょう。
 ・よくみられる誤答(繰り上がりや繰り下がり、位のそろえ方)を例に、正しい筆算の仕方を説明する活動をしましょう。

第4学年
 ・整数の四則計算において、基礎的・基本的な計算の技能を習熟する活動や、計算を生活や学習に活用する活動をしましょう。

第5学年
 ・小数の計算の仕方を、数直線や計算の性質などを用いて、説明する活動をしましょう。
 ・小数の計算の能力を定着させ、それらを用いる能力を伸ばす活動をしましょう。

第6学年
 ・分数のたし算・ひき算では、単位分数のいくつ分であるかを考え、説明する活動をしましょう。
 ・分数の計算の能力を定着させ、それらを用いる能力を伸ばす活動をしましょう。

◇全校としての取組例◇

- 1学期や当該学年までの既習事項の確認テストを各学年で複数回を行い、その結果を踏まえて個に応じた指導(放課後など授業以外も含めて)を充実する。
- 基本的な計算の仕方や、つまずきやすい内容(よくある誤答も含めて)は、教科書の説明や例題、実際の児童の解答を使って丁寧に指導する。
- 言葉や図、式、数直線などを用いて、考えたことや計算過程が分かるようノートに書くことを指導する。
- 考えたことを書いたノートをもとに、友達と説明し合う機会を設定し、自分の考えを確認したり、見直したりするよう指導する。
- 授業のはじめに、前時の学習内容や前単元までの四則計算の復習の時間を設定したり、授業の終末に、本時で全員に身に付けさせたい学習内容を定着させる練習の時間を確保し、必要な問題数に取り組みせたりする。

第4期 数学「数と式」の領域に関する事項

★方程式を確実に解くことができるようにしましょう。

- すべての生徒が、各学年において「方程式を確実に解くことができるようにする」ために、指導内容を確認し、数学的活動を通して、学習指導要領の内容が確実に身に付くよう指導の改善を図りましょう。

指導のポイント

【必ず定着させる指導内容を確認しましょう】

第1学年

- 正の数、負の数の四則計算
- 一元一次方程式 など

第2学年

- 連立二元一次方程式 など

第3学年

- 二次方程式 など

【指導方法を工夫しましょう】

◇数学的活動の充実例◇

第1学年

- 正の数、負の数の四則計算は、小学校算数で学習した数の四則計算の意味に基づいていることを、説明し合う活動をししましょう。
- 等式の性質が式変形の根拠となっていることを、自分なりに説明し伝え合う活動をししましょう。

第2学年

- 連立二元一次方程式の解き方については、既に知っている一元一次方程式に帰着して考えるなど、筋道立てて説明し伝え合う活動をししましょう。

第3学年

- 二次方程式の意味や解き方、因数分解の仕方などについて、根拠を明らかにして筋道立てて説明し伝え合う活動をししましょう。

◇全校としての取組例◇

- 1学期や当該学年までの既習事項の確認テストを各学年で複数回行い、その結果を踏まえて個に応じた指導（放課後など授業以外も含めて）を充実する。
- 計算の仕方やつまづきやすい内容（よくある誤答も含めて）、公式、基本的な用語や記号、表記上の約束などは、教科書の説明や例題、実際の生徒の解答を使って丁寧に指導する。
- 言葉や図、式、数直線などを用いて、問題の解決に向けて筋道立てて考えたことや計算過程が分かるようノートに書くことを指導する。
- 筋道立てて考えた経過などを友達と説明し合う機会を設定し、自分の考えを確認したり、より一層強化したり、互いの考えを補完し合ったりするよう指導する。
- 授業のはじめに、前時の学習内容や前単元までの正の数、負の数の四則計算や方程式の復習の時間を設定したり、授業の終末に、本時で全員に身に付けさせたい学習内容を定着させる練習の時間を確保し、必要な問題数に取り組みせたりする。

算数・数学（第4期）の目標を実現するために

子どもたちの課題をきめ細かく把握し、次の指導に生かすために、①チャレンジテストの結果から“どの程度定着しているのか”を検証するとともに、②全国学力・学習状況調査の解答類型や無解答率を分析し“授業改善のポイントはなにか”を把握しましょう。

① チャレンジテストの結果から「次の指導」へ

第4期の目標に合わせてチャレンジテストを配信します。「授業改善や放課後などの補充指導、宿題等」で取り組んだ成果を、チャレンジテストで検証するなどして、次の指導に生かしましょう。

<例：中2 連立方程式>

H25年2月（第20回）中2 $\begin{cases} 5x + 6y = 9 \\ 2x + 3(y - 2) = -3 \end{cases}$ 全道の平均正答率 56.1%	「次の指導」 「一次方程式」や「正・負の数の四則計算」（中1）の定着状況を確認しながら指導 下位層の子どもへの指導を重点	H25年5月（第22回）中3 $\begin{cases} 5x + 3y = 0 \\ 3x - 2(x - y) = 7 \end{cases}$ 全道の平均正答率 57.1%	「次の指導」 サポート問題（類似問題）を活用して、放課後等の補充指導や、宿題を充実 家庭との連携を重点	H25年7月（第23回）中3 $\begin{cases} 5x + 3y = 0 \\ 3x - 2(x - y) = 7 \end{cases}$ 全道の平均正答率 60.1%	「次の指導」
---	---	--	--	--	---------------

② 解答類型・無解答率の分析から「次の指導」へ

第4期の取組を充実させるため、自校の「解答類型」や「無解答率」を分析し、次の指導に生かしましょう。

<例：小6 分数のわり算>

調査問題 H24 小学校算数A ①(7) $\frac{4}{5} \div 8$	解答類型 類型番号1 ◎ $\frac{1}{10}$ 類型番号2 ○ $\frac{1}{10}$ と等しい分数 類型番号3 × $\frac{32}{5}$ 類型番号9 × その他 [全国より7.1ポイント高い]	無解答率 [全国より5.3ポイント高い]	「次の指導」 ①面積図などを用いて、まずは、分数のかけ算の仕方(分子に掛けること)と、その意味を確認 ②確認した分数のかけ算の仕方やその意味と比較し違いを確かめながら、分数のわり算の仕方(分母に掛けること)を、丁寧に説明 ③必要な分量の練習問題や宿題を提示
--	---	--------------------------------	--

第4期の検証問題(チャレンジテスト)

第4期では、これまで同様、過去のチャレンジテストや全国学力・学習状況調査の問題等を参考にしながら、検証問題（冬のトライやるウィーク）として、次のような問題を出題する予定です。

各学校においても、サポート問題や、過去の調査問題、過去のチャレンジテストを活用したり、独自の問題を作成したりするなどして、確実に身に付くまで繰り返し指導しましょう。

小学校

- 第1学年 繰り上がりのあるたし算 [8+5]
繰り下がりのあるひき算 [12-5] 等
- 第2学年 かけ算九九 [4×7]
繰り上がりのあるたし算 [28+72][H19] 等
- 第3学年 繰り上がりのあるたし算 [132+459][H24]
かけ算の筆算 [725×8][H21] 等
- 第4学年 四則混合
[80-30÷5][H21]、50+150×2 [H22] 等
- 第5学年 小数のひき算 [4.6-0.21][H24]
小数のわり算 [48.1÷1.3][H21] 等
- 第6学年 分数のひき算 [3/7-2/5][H24]
分数のわり算 [2/3÷5/7][H19:中] 等

中学校

- 第1学年 正の数、負の数の計算 [8-5×(-6)][H19]
一次方程式 [7x=4x+6][H24]
等式の性質 等
- 第2学年 連立方程式
$$\begin{cases} 5x + 7y = 3 \\ 2x + 3y = 1 \end{cases}$$
 [H19] 等
- 第3学年 二次方程式
[3x²-3x-1=0、x²-7=0]
乗法の公式 等

※下線は、全国学力・学習状況調査に出題された年度を示しています。上記以外にも参考になる問題は複数あります。

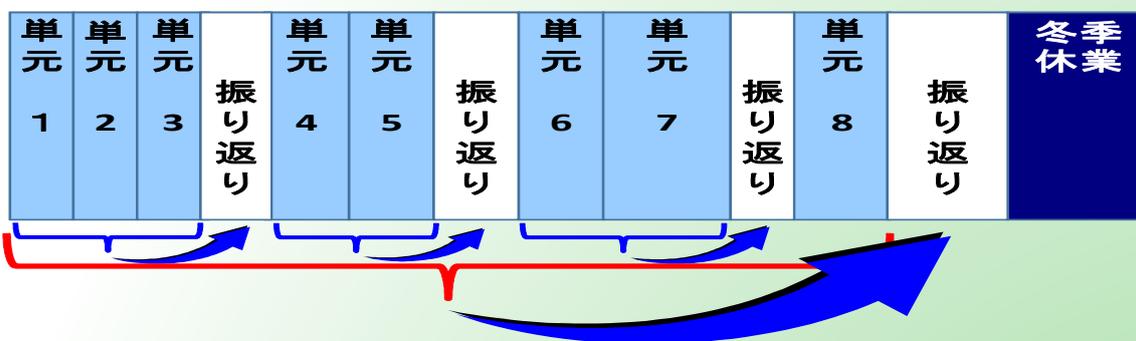
今後、つまづきやすい問題チェックリストを掲載します。 → <http://www.dokyoii.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/gks/reef4.htm>

Q 1 「オール北海道で目指す目標」でまだ取り上げていない領域について、本校で課題が見られる場合はどうすればよいですか。

A 1 「オール北海道で目指す目標」は、本道の平均正答率が低い領域の中から「つまずくとそれ以降の学習に影響が大きいもの」を示し、チェックリスト的な意味合いで示しているものです。各学校においては、第4期に示した学習内容の定着を重点的に図っていただくとともに、平成25年度全国学力・学習状況調査の調査結果等を踏まえ、各教科等における基礎的・基本的な知識・技能の定着状況を把握した上で、子どもの実態に応じた指導を計画的・継続的に行うことが大切です。

Q 2 授業では、具体的にどんなことに留意すればよいですか。

A 2 全国学力・学習状況調査や、チャレンジテスト等の結果で明らかとなった子どもの実態に応じて、授業では、すべての子どもが第4期の目標に迫ることができるよう、既習事項を繰り返して指導するとともに、子ども自身が自分の学習の成果や課題を振り返ることのできる機会を増やす指導を工夫することが大切です。



Q 3 家庭学習の指導において、具体的にどんなことに留意すればよいですか。

A 3 計画的・継続的に家庭学習に取り組みせ、学習したことを確実に定着させる指導を工夫することが重要です。そのために、例えば、次のような観点から各学校で統一した指導を行うことが大切です。

- 宿題を毎日出す。
- 家庭学習専用のノートやファイルを用意して、取り組ませる。
- 宿題への取組状況や内容を評価する。
- 間違えた問題を、授業等で繰り返し指導する。
- 定着状況に応じて個別に宿題を出す。
- 土日や長期休業時に、定着の低い問題をまとめて宿題として出す。

Q 4 第4期の定着状況を、どのように検証するのですか。

A 4 チャレンジテストを活用して第4期の目標の定着状況を把握することができます。各学校において、チャレンジテストの採点結果を「北海道学力向上Webシステム」に登録し、全道や管内の設問ごとの定着状況と比較しながら「どの学年、どの学習内容でつまずいているのか」を検証し、その後の指導に生かすことが大切です。平成26年1月に実施予定の「第4回チャレンジテスト“冬のトライやるウィーク”」では、すべての子どもに基礎学力が確実に身に付いているか」を検証しましょう。



下学年の学習内容を含めて、繰り返し指導しましょう。

<報告事項3>

平成25年度石狩市・恩納村中学生交流事業（派遣）について

1 実施目的

気候、風土、歴史及び文化の異なる沖縄県恩納村と石狩市との相互交流を通じ、次代を担う生徒の視野を広め、社会性を養い、資質の向上とその健全育成を図ることを目的とする。

2 経緯

国体のソフトボール開催地という共通点をきっかけに、中学生が相互訪問する交流事業は、石狩市からは平成3年度から隔年で恩納村に派遣、今回が12回目の訪問となる。恩納村からは冬期に来市され、これまで20回訪問団を受け入れている。

3 主催

石狩市・恩納村生徒交流委員会

4 日程

平成25年10月20日(日)～23日(水) 3泊4日

5 訪問団

生徒 20名 (男子9名、女子11名)

引率者 5名 団長 (花川中学校校長) ほか

計25名

6 主な交流内容

○1日目 (10月20日)

・石狩市役所～新千歳空港～那覇空港～恩納村、南部戦跡見学

○2日目 (10月21日)

・友好都市提携調印式、記念珊瑚植付け、恩納小中学校との学校間交流 (学校紹介、文化交流)、学校給食体験、沖縄科学技術大学院大学見学、万座毛見学、民泊対面式 (生徒民泊)

○3日目 (10月22日)

・美ら海水族館見学、海洋体験 (シュノーケリング等)

○4日目 (10月23日)

・首里城見学、那覇空港～新千歳空港～石狩市役所

< 報告事項 4 >

第58回（平成25年度）石狩市民文化祭の開催について

- 1 主催 石狩市、石狩市教育委員会、NPO法人 石狩市文化協会
- 2 主管 石狩市民文化祭実行委員会
- 3 概要 テーマ：「つどい」

(1) 市民発表部門（旧石狩会場）

【展示】

日時：10月18日（金）～20日（日） 10：00～17：00（※20日は15：00まで）

場所：花川南コミュニティセンター

内容：絵画・写真、書道、文芸、陶芸、手工芸、生け花などの作品展示、体験コーナー、実演・実食コーナー（お茶席、手打ちそば） **【52団体（個人）参加予定】**

【舞台】

日時：10月19日（土）11：00～15：30、20日（日）12：00～16：00

場所：花川北コミュニティセンター

内容：日本舞踊、伝承芸能、洋舞洋楽、お楽しみ抽選会（両日演目終了後） **【30団体（個人）参加予定】**

(2) 厚田会場（厚田生涯学習フェスティバル）

日時：11月10日（日）9：30～ 場所：厚田総合センター

内容：**【展示】**厚田区小・中学生の作品展示（絵画・書道など）、サークル発表（手芸、絵画、書道など）

【舞台】厚田区小学校音楽のつどい（合唱・器楽演奏など）、サークル発表（和太鼓、舞踊、オカリナ、紙芝居など）

(3) 浜益会場

日時：11月3日（日・祝） 場所：浜益コミュニティセンター「きらり」

内容：**【展示】**9：30～ 写真、パッチワーク、草木染め、ステンドグラスなど
（浜益デイサービスセンター利用者の作品あり）

【舞台】10：00～ 舞踊、カラオケ、浜益小劇場など

「茶道愛好会」によるお茶席コーナー

(4) クリスマスコンサート2013 ※協賛：石狩ライオンズクラブ

日時：12月14日（土）13：00～15：30（予定） 場所：花川北コミュニティセンター

出演予定団体：石狩エンジェル・クレア少年少女合唱団、南線小学校リコーダークラブ、
花川南中学校、花川北中学校、樽川中学校、石狩南高等学校吹奏楽部、
石狩翔陽高等学校吹奏楽局 ※吹奏楽部の合同演奏も予定

(5) 共催事業

【第26回いしかり菊花展】

日時：11月1日（金）～3日（日・祝）9：30～17：00 場所：花川北コミュニティセンター

内容：大菊・小菊の展示 ※入場無料、お茶席コーナーあり

(6) 協賛事業

【第16回オータムコンサート】 ※主催：石狩市音楽家・音楽団体協議会

日時：10月5日（土）14：00～ 場所：花川北コミュニティセンター ※入場料500円（小学生以下無料）

出演団体：石狩混声合唱団、コル・ソナーレ、いしかりエコー、アルバ・コラーレ、パストラル・クワイア、コール・ドルチェ

<報告事項5>

第14回（平成25年度）石狩市民図書館まつりの開催について

- (1) 趣 旨 図書館ボランティアや関係団体との協働により、読書活動の推進を図る。
- (2) テー マ 「海・川・魚」 ～川と海からのおくりもの～
- (3) 主 催 石狩市民図書館
企画・運営 図書館まつり運営委員会
- (4) 開催期日 平成25年10月26日（土）～ 10月27日（日） 10時～17時
- (5) 会 場 石狩市民図書館本館
- (6) 主な内容
- 10月26日（土）
- ・ 調べる学習コンクール～表彰式～
 - ・ マジックショー【北大奇術研究会】
 - ・ 紙芝居とお絵描き「みんなでサケを知ろう」【漫画家・かじさやかさん】
 - ・ 語り（ストーリーテリング）【竹田智子さん】
 - ・ おはなし会【おはなし会びっくりばこ、サラ&ラルエケ&リア（ALT：英語指導助手）、石狩市文庫連絡会】
- 10月27日（日）
- ・ 名取・輪島市図書館友好調印式
 - ・ マジックショー【塚田崇さん】
 - ・ 演劇「ブリキの夢ー石狩缶詰工場物語ー」【浜益小劇場】
 - ・ おはなし会【藤女子大学、子っ子の会】
 - ・ DVD上映会【フロアボランティア】
 - ・ 沖縄の三線演奏【三線：磯木一範さん】
- 両日開催
- ・ むかしあそび【伝承あそびボランティアおてだま】
 - ・ 布の絵本とおもちゃであそぼう！【ボランティアサークル布の絵本にじ】
 - ・ 乳幼児休憩室【ブックスタートボランティア】
 - ・ 展示「村山家文書解説『石狩場所蝦夷人撫育筋書上』を読む」【石狩市郷土研究会（村山家文書を読む会）】
 - ・ 本の特集「川と海からのおくりもの」（閲覧室内）
 - ・ 図書館クイズ・スタンプラリー
 - ・ 軽食コーナー